

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:平成2年3月31日

事業所名 放課後等デイサービス暖母多の津Ⅱ No.6

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5	1	活動に応じた部屋割を設定し、児童が切り替えができるように配慮している。	利用人数が増加するとスペースが狭くなるので、利用人数に応じた配置を考える。
	2	職員の配置数は適切である	5	1	児童の支援につくスタッフを少ない。	定数増に伴い職員数も増加して、児童のサービス提供の充実をめざす。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	0	6		古い一軒家の間取りで、玄関やスロープに大きな段差がある。そのため設備の改善を図る。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6	0	計画実施評価の一連の流れをサイクル化している。	職員にPDCAのマネージメントが図れる研修を行っていく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6	0	保護者にアンケートを実施して、その結果について職員研修を行っている。	次年度は通信等で保護者の考えを反映できるようにグラフ化を図ってわかりやすく公表していく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6	0	今回が初めての結果公表を行った。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0	6		次年度は暖母以外の専門家による評価を行えるように評価委員会の位置づけを図る。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6	0	研修の機会は暖母全体の流れとして、定着してきた。	次年度は年度当初から研修の年間計画を作成し、スタッフ個人の資質向上を図る。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6	0	児童や保護者にニーズに対応した計画書を作り、モニタリングを通して計画の低成果を図っている	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6	0	会社で準備されたアセスメントシートを元に児童の適切な状況の確認を行っている	標準化されたアセスメントツールを活用してさらに適応行動の状況を掴んでいく。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	6	0	日案を担当者と責任者の複数で作成している	日案を「だれが」「いつまで」「何を」「どのように」作成するか明確化し、活動プログラムの流れを一定化した
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6	0	毎月のプログラムを担当者を中心に作成している	プログラムは継続と新規を織り交ぜて、変化のある内容にしていく。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	1	0	来所時刻や時間配分を考えた内容を工夫している	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	1	0	自由研究や集団レクなど個と集団の活動を区別している	児童のやってみいたいという気持ちを大切にしたい取り組みと児童にこうあってほしいから行う取り組みを今後も継続していく。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6	0	朝のミーティングで1日の計画と役割について審議している	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6	0	終了後振り返りを行い、問題解決に向けた改善策を話し合っている	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6	0	ミーティングノートや日報を毎日綴って、保管している	記録はサービスの計画や実践や評価を伴う内容につながるよう分担と保管を徹底する
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6	0	モニタリングの担当を決め、サービスの内容を検討している	モニタリングや個別支援計画の作成を分担化し、評価時期にサービスの内容について論議し、適切な支援方法を設定していく
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	6	0	自立支援や創作、余暇の利用等一日のプログラムに組み合わせさせて支援している		

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6	0	児童の担当者を決定し、担当者会に児発管と一緒に参加している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100%	0%	学校お迎え時に担任と話し合いを行い、一日の様子について情報交換を行っている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	4	2		保護者と相談し主治医との連絡が取れるように依頼し、緊急時に即応できる体制を作る。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	0	6		就学前の受け入れ先との連携ができていないので、次年度からは保育所や児童発達支援事業所への訪問を行っていく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	0	6		学校を卒業した児童をまだ受け入れていない。社会に巣立っていく児童が困らないように情報提供を十分に行っていく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	0	6		専門機関との連携を図れるように、研修の中に位置づけて取り組みを行いたい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0	6		地域の中で生活支援が行われるように、日頃から地域の施設等々の交流を目指していきたい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	2	4		地域の協議会には積極的に参加していく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6	0	送迎時や家庭訪問をとおして、生活の様子や問題点について話し合っている。	定期的に家庭訪問を実施し、児童や家庭の様子を聞き、疑問や支援方法を一緒に考える事で支援に対する共通理解を図る。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	6	0	専門性を生かして、保護者の疑問に答え、支援の共有化を図っている。	ペアレント・トレーニングの在り方について、研修を通して学びながら、保護者への支援につないでいく。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6	0	契約時に重要事項を説明し、同意を得ている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6	0	保護者からの悩み等の相談には素早く対応策を提示している。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	6		保護者会の開催を計画していたが新型コロナウイルスの影響で開催が延期になったので、次年度は早期に開催したい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	6	0	トラブルが発生した時には、原因と対策を伝え、保護者に納得できる対応を行っている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6	0	暖母通信を毎月発行し、事業所の様子や行事、研修会やイベントの紹介等を載せている。	
	35	個人情報に十分注意している	6	0	個人情報を守る同意書を作成している。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	1	0	連絡帳や家庭訪問等、送迎時での報告等で情報を共有している。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	1		開所後5ヶ月で地域とのつながりに配慮した取り組みを行っていなかったため、今後地域住民との交流を図れるようにする。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	6	0	緊急時対応マニュアル等各種マニュアルを作成して周知徹底している。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6	0	避難訓練(火災、地震)を実施した。	次年度は年2回実施予定。防犯訓練、地震風水害訓練に向けた取り組みを実施する。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6	0	体罰や言葉の暴力等が発生しない事業所づくりを行っている。	年間計画に虐待防止研修を位置付けて、虐待を起ささない事業所づくりをめざす。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	6	0	重要事項の説明を通して、身体拘束について説明している。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6	0	アレルギーについては命に関わるので、アレルギーの調査書の提出を義務付けている。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6	0	毎日のヒヤリハットの作成を通して、気づきや支援の見直しを行っている。	本年度のヒヤリハットを振り返り、事例を通して危機意識を高める研修を行う。